

あわくら
歴史街道長尾村八右衛門の
孝行詳説

八右衛門の父長九郎は、よう瘡と云う病に罹りましたが、一度は快方に向かい喜んでいました。余毒が残っていたのか僅かの歳月を経てよう瘡が再発しました。先年患った時よりは年も取り、病勢も非常に悪く医者も治癒するのは至って覚束ないと申されて、八右衛門の驚き悲しみは殊の外で、一生懸命神仏に祈りを捧げ、薬の当は貧家乍ら求め、家産が傾くのも労苦も厭わず、この間百日余り実に寝食を忘れて看護に当たっていました。この度も活路、良い兆候が見られない状況の続く中、不思議にも蘇生されて村人一同は、是皆八右衛門さんの孝心を天地自然が助けたのだと感称したと伝えてあります。

八右衛門に若い頃から妻縁を勧める人も大勢いましたが、八右衛門は『孝婦は中々得難いもの』と断り、終始妻を娶らず独身で通し貧しさに負けず只管孝養にのみ心力を尽くし、父も老齢に加えて二度のよう瘡の患いに大層悩みましたが、病氣も治り平常の暮らしに戻ってからは、妻にも先立たれた父は高齢、貧しい生活の中で心中侘びしい筈なのに至って健康で動きも軽く、目耳の故障もなく百歳近く長寿を全うされました。この事は、偏に八右衛門が日常至れり尽くせりの行状の賜以外の何物もないと云えるでしょう。

寛政4年(1792)4月領主土浦藩土屋能登守の郡吏が長尾村里正(庄屋)に命じて八右衛門を役所に呼び、一部始終を聞き取り、役人よりも詳しく語り合われて、感激の余り役人自身の寸志として銭百千文を恵み与えられたそうです。更に寛政5年2月、藩主より懇ろなお誉めの言葉と米8俵を下されています。(以上美作孝民記を参考にしました)八右衛門は父の好物、薬事、洗濯に朝夕星を見る迄働き乍ら養父を安心させ、大往生の死を見送りました。八右衛門も村人の模範となる人生を送り、文化5年(1808)7月24日この世を去りました。彼が生涯の美挙に対して、この地土浦藩代官加藤敬頼が食禄を与えて顕彰し、碑を建て今も不滅の孝子として村人の信も厚く香華も絶えないと云われています。

また、大正15年(1926)9月岡山県知事笠井信一氏が県下巡視の際、孝子碑に詣で香資を供えて篤孝徳を顕彰されております。「孝は百行の徳」の諺どおりであります。



略孝子八右衛門伝の碑

所在 美作森林組合西栗倉事業所の南
(四分一国道脇)

碑文 天保7年(1836)摩嶋長弘撰
碑の裏面に刻字

建碑 万延元年(1860)11月土浦藩代
官加藤敬頼が土浦藩藩費をもって
建立された。

人の動き

平成21年3月1日現在

- 人口 1,621人(-6)
- 2月中の移動
- 男 756人(-2) 出生 0人 死亡 1人
- 女 865人(-4) 転入 0人 転出 5人
- 世帯数 536戸(-3)

お悔やみ申し上げます

小林みつよ さん(猪之部) 2月25日 86歳
田中 浩助 さん(坂根) 3月10日 87歳

善意の窓

(村社会福祉協議会から)
平成21年2月20日~平成21年3月19日)

おめでとうございます

別府 道上 正寿 様 二男 広基 様 結婚内祝

お大事にしてください

引谷 青木 きぬ 様 本人 退院内祝
影石 江見 高子 様 本人 退院内祝
引谷 青木 廣実 様 本人 退院内祝
知社 清水 巖 様 本人 退院内祝
影石 萩原 敏郎 様 本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

坂根 田中 裕之 様 亡父 浩助 様 香典返し
引谷 石原 茂子 様 亡長男 佑持 様 香典返し
美作市 瀧元 虎市 様 亡姉 小林みつよ 様
香典返し

今月の村税

軽自動車税

納期限：4月30日(木)

◎納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。口座振替の場合は残高確認をお願いいたします。

お問い合わせ先：西栗倉村役場総務企画課

たばこは村内で買いましょう